

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	山形県立こども医療療育センター 児童発達支援センター（からふる通園）		
○保護者評価実施期間	令和7年11月27日 ～ 令和7年12月11日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	令和7年12月15日 ～ 令和7年12月19日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通園を基本としているため、お子さんの変化や成長の芽を保護者と共に観察して発達支援ができること。また、成長の喜びや困り感を保護者と共有しながら保護者の子育て支援が出来ること。	保護者、通園保育士内、医師やリハビリスタッフ・栄養士などの多職種と気づきや疑問点を積極的に話し合い、より良い支援を目指しています。	これまで以上に、お子さんの希望や思いを大事にしていきます。 遠城寺式発達検査やポーターズ早期教育プログラム等をもとに、お子さんの発達状況の理解に努めます。
2	医師、PTOTST等、多職種と連携し支援できる。	随時、リハビリの見学や多職種との情報交換を行っています。	特に年度初めやお子さんの状況に変化があった際は、さまざまな視点から情報を得ていきます。
3	少人数活動であるため、ひとり一人の興味や発達に合わせた活動の工夫や提供ができる。	・友達とのコミュニケーションにつながるよう大人が友達の代わりとなり、お子さんに合わせたスモールステップを取り入れています。 ・家庭での生活に生かせる工夫やアイテムを一緒に考えています。	ひよこグループ・うさぎグループを超えて、ニーズに合わせた柔軟な活動を行います。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	きょうだい児支援の取り組みが少ないこと。	きょうだい児支援に対するサポート内容の周知不足が考えられます。	利用されているお子さんだけでなく、ご家族全体の支援について積極的に働きかけます。
2	活動時間内に訪れることのできる遊び場が限られること。	利用日にリハビリや各種診察が入ることもあり、十分遊ぶことのできる時間の確保や調整が必要。	意義を明確にしながら早めに計画していきます。また、さまざまな情報収集に努めます。
3			